

SKI-O JWOC 2001 & WMOC 2001
11-18/2/2001 イタリア (TRENTINO)

ロゴマーク 張り付け

爺爺は躍った

冬の裏日本で、細々と開かれているスキーオリエンテーリングですが、国際的にはこの時期はSKI-Oです。

オリエンテーリングの世界選手権大会で日本人の未参加大会はジュニアとマスターズのSKI-Oだけでした。

目の黒いうちに(大分ショボショボになっているが)これらの大会参加を見届けたかったので、家族に1年前から計画的犯行(?)を積み重ね、J-Cupの準備が滞る中、スタッフに後ろ髪を引かれる思いで(ウツソ-?)自らミラノのマルペンサ空港に飛び立ちました。

総勢7名の日本チームは、ジュニアは堀江君(東北大 OLC)一人、ジュニア資格がオーバーシコーチを買ってくれた植野さん(北海道教育大旭川校)と団長の武石以外は、フットも含めて国際大会が初めての者ばかりでしたが、マスターズそれぞれのクラスに参加しました。

オープニングセレモニーではアルプスの南斜面にへばりつくようにホテルやレストラン・商店が集落しているリゾート地フォルガリアの市中行進から始まった。

(閉式後、柑橘類を薬味に入れて煮こんだホットワインの美味しかった事が強烈な印象で残る)

ショートでスタンスは2/13、CENTRO FONDO-PASSO COEの常設クロスカントリーコース付近の牧場をトレインとして行われた。

H50の三澤と同時スタートの武石(H60)は、ワックスもバッチリで程よい緊張を保ち、登りを無理せずペースを守り、得意の下りでは一度も転ぶことなくコントロールに辿り着けた。悔しいのは何でもないラストコントロール手前のルート選択を誤って下るところを上ってしまい、無駄に時間を取ってしまった。

H60のトップスタートだったので、速報ではしばらく1位から2位をキープしていたが、まさか世界の強豪の中で3位にとどまるとは思っても居なかったし、多分WOC日本最初の表彰台に上ることを思って心でゾクゾクと躍っていました。

ご存知アメリカのシャロンも参加していて、とっても喜んでくれて抱き着いて祝福してくれました。

15日夜の表彰式では、始めに遠来のアメリカとオーストラリア、それに日本の国歌を演奏して敬意を表してくれたのには感激でした。

来年はチェコ、H65の参加資格が出るのでもう少し上の順位にチャレンジしたいなあ。(武石雄市)

写真 1

2位オーストラリア、1位ロシアの選手と日の丸の旗を抱えて祝福の握手を交わす3位武石。

じいじいとその仲間たち

(植野由香)

2001年2月11～18日 イタリア - フォルガリアで行われた JWOC&WMOC に日本は初参加をしました。

私は Open-Women の選手として、又、コーチとして参加しました。

ShotDistance な、なんとじいじいが H60 クラスで3位入賞を果たしました。他の人々も無事に完走し、ジュニアの堀江君はブービー賞をとる事ができました。12月からSKI-Oを始めたと言う堀江君の頑張り、本当に驚きました。

スキーは下手だけど(本当に!!)登りを一生懸命に滑る姿を見て感動してしまいました。

写真 2

登りを懸命に滑る堀江君

Reiay じいじいがやらかしてくれました。全員リレーに出られないところでした。前日のエントリーを忘れてしまったのです。堀江君の英会話とじいじいのゼスチャーにて12:20のOpenクラススタートに間に合い、滝本さん、堀江君、植野の3人が1走としてスタートしました。

後で聞いたら、堀江君が1ポで私について来てしまい、間違えたそうで、同じ日本人としてちょっとショックでした。

植野が30分を切るくらいの速さで会場に帰ってくると、な、なんと2走のじいじいが居ません。これには私も飽きれてしまいました。そんなじいじいは私を5分近く待たせておまけにペナって帰ってくるし……。

そんな陰で頑張っている姿を見れたのは、滝本さんと弘中さん。最後に長く厳しい上り坂を滑るのですが、滝本さんは私の声援のおかげで(??)休まずかけ上がってきました。弘中さんは小さな身体を大きく使い、SWEDENチームの応援にも支えられ、休まず滑りきったのです。私も60代まで続けられるかな?と思いました。

観光 16日はヴェローナでガイド付の一日観光をしました。黒崎さんという女性の方でイタリアには15年近く住んでいるそうでイタリア語がペラペラでした。ロミオとジュリエットの家を見たり、ヴ

ェローナの街の歴史を聞いたり、紀元前の道路にも足を踏み入れて来ました。昼は、イタリアチックにピザを食べ、Shopping。三澤さんは会社の方へとおみやげをどっさりと買われていました。じいじいは奥さん&幸くんたち孫へとどっさり買われていました。...年はとりたくないナァ...!!

そんな充実した一日を送ったおかげで、WAXINGは夜中まで続けました。

Classic Distance 最後のレースということでみんな気合を入れていました。Juniorは優勝タイムが70～75分という中、90分近くで走った堀江君。

本人は納得していませんでしたが、Shortより順位は一つ上がって後から3位には入り、私は嬉しかったです。90分間の内容は詳しく知りませんが、話を聞いていると、SKI-Oのコツを早くもつかんだようで、読図も使えるようになり「成長したなぁ」と感じました。(私と一才しか変わらないけど...)

土曜日ということもあり、Masterは参加者が増えたクラスも多く見られました。トレインはオープンが多く、それを有効に使えた人は目標タイムを切れて満足した人もいるでしょう。残念だったのは弘中さんが全て周れて来れなかったことと、じいじいが怪我をしたこと。でも今ごろ不死身のじいじいは再生して元気いっぱいでしょう。

全てを通して 私はコーチらしいことは何も出来ず反省しています。でも、じいじいよりはハプニングは起していません。じいじい、反省してください!!(特にりれー!!)

そう言えば、帰りの列車がストライキを起してたり、空港のターミナルが違うところで降ろされたり、多くの珍事件がありました。でも、この記事がオマガジンに出ているってことは生きて帰ってきた証ですね。6人の皆さんお疲れ様でした。

最後になりましたが、日本で応援していただいた皆様、ありがとうございました。次回は是非一緒にSKI-O大会に出場しましょう!!

2001.2.19.帰国機内にて

写真 3

OW 2位の植野(賞品の花の鉢は検疫を通過した)

Ski-OJwoc-Wmoc2001 の参加記

高原 進

何よりも天候が全日程すべて晴れでイタリア北部アルプスのすばらしいロケーションの中でスキーが楽しめました。以下に、私の今回の失敗のいくつか記載します。

先ず、日本から1本しか持ってこなかったストック(ポール)を最初のモデルイベントで折ってしまい、宿泊地のフォルガリアのスポーツ店で間に合わせの安いストックを買った。外国でのスキーOの場合、出来るならスキーとストックは2本づつ用意して持参すれば良いと思った。

次はショートディスタンス会場についてから、ホテルにスキー靴を忘れてしまい、ジュニアで、私のスタート時刻より早くゴールしていた堀江君の3センチも大きい靴を借り、靴の先に詰め物をして何とかレースに出場できたことである。

スキーOは持ち物が多いので持って行く物のリスト等を作成して確認してから出かける必要を感じた。

マスターズ国際大会は、参加して楽しく、又、いろいろ勉強になります。

来年以後の大会に、是非スキーオリエンティアの皆様参加をお薦め致します

写真 4

SKI-O JWOC&WMOC 初参加の日本選手団

成績抜粋

ショートディスタンス

JUN-MEN 6400m

- | | | | |
|---|----------|-----------------|-----|
| 1 | 00:25:53 | ANDERSSON DAVID | SWE |
| 2 | 00:25:59 | FISHER RENO | SUI |

- | | | | |
|----|----------|------------------|-----|
| 3 | 00:26:35 | VESSELOV KIRILL | RUS |
| 4 | 00:26:48 | PARKKINEN JARNO | FIN |
| 5 | 00:27:24 | ENGVALL ERIK | SWE |
| 6 | 00:27:25 | SOROKINE MIKHAIL | RUS |
| 61 | 1:04:33 | HORIE MORIHIRO | JAP |

JUN-WOM 5800m

- | | | | |
|---|----------|-------------------|-----|
| 1 | 00:28:59 | BERGKVIST MARIA | SWE |
| 2 | 00:29:57 | SHVEZOVA SVETLANA | RUS |
| 3 | 00:30:28 | JOENSUU MARTTIINA | FIN |

H35 7100m

- | | | | |
|----|----------|--------------------|-----|
| 1 | 00:31:34 | MAKIPAA VESA | FIN |
| 2 | 00:32:04 | KUZMIN IVAN | RUS |
| 3 | 00:33:07 | KUGLER JOHAN | AUT |
| 16 | 1:07:54 | TAKIMOTO SHOICHIRO | JAP |

H50 5500m

- | | | | |
|----|----------|------------------|-----|
| 1 | 00:32:29 | ZENI GIANFRANCO | ITA |
| 2 | 00:33:03 | TOLKKINEN VEIKKO | FIN |
| 3 | 00:37:15 | WEBER MARZIANO | ITA |
| 10 | 00:51:31 | MISAWA YOSHIO | JAP |

H50 5500m

- | | | | |
|---|----------|-----------------|-----|
| 1 | 00:29:21 | ORPANA RISTO | FIN |
| 2 | 00:30:31 | MAIER CURT | AUT |
| 3 | 00:44:50 | EBERLE WOLF | AUT |
| 4 | 1:10:29 | TAKAHARA SUSUMU | JAP |

H60 3750m

- | | | | |
|---|----------|-----------------|-----|
| 1 | 00:28:31 | ROUSSANOV PAVEL | RUS |
| 2 | 00:31:44 | HOCH GERFID | AUT |
| 3 | 00:34:35 | TAKEISHI YUICHI | JAP |

O-W 6000m

- | | | | |
|---|----------|------------------|-----|
| 1 | 00:30:22 | HIRVI AINO*MARIA | FIN |
| 2 | 00:30:54 | UENO YUKA | JAP |
| 3 | 00:40:57 | HURUSKOVA LENICA | ITA |

写真 5

ゴールレーンを全力滑走する三澤選手 (H50)

リレー

Relay-O

1	01:35:53	FINLAND MASTER 5
	00:47:25	JAP(HORIE) 1走のみ
	02:33:35	JAP(takahara,takahara,misawa)
	02:40:54	JAP(ueno,takeishi,hironaka)

ロングディスタンス

O-W. 4950m

1	00:26:16	HIRVI AINO*MARIA	FIN
2	00:27:24	MULEMANN REGULA	SUI
3	00:30:16	WICKI YVONNE	SUI
5	00:34:42	UENO YUKA	JAP

JUN-MEN 10750m

1	00:45:03	VESSELOV KIRILL	RUS
2	00:46:35	FISHER REMO	SUI
4	00:46:42	SOROKINE MIKHAIL	RUS
61	01:33:35	HORIE MORIHIRO	JAP

H60 5500m

1	00:43:43	ROUSSANOV PAVEL	RUS
2	00:50:18	DEFLORIAN REMO	ITA
3	01:00:22	HOCH GERFIED	AUT
5	01:10:14	TAKEISHI YUICHI	JAP
==RI==		HIRONAKA SUSUMU	JAP

H55 5500m

1	00:29:33	ORPANA RISTO	FIN
2	00:32:20	MAIER CURT	AUT
3	00:36:03	MIKKOLA KYOSTI	FIN
5	00:56:12	TAKAHARA SUSUMU	JAP

H50 5650m

1	00:28:34	TOLKKINEN VEIKKO	FIN
2	00:32:25	OSWALD HANSPETER	SUI
3	00:33:49	HECHL ANTON	AUT
8	00:47:34	MISAWA YUSHIO	JAP

H35 10050m

1	00:41:54	STOFFEL LUKAS	SUI
2	00:45:13	KUGLER JOHAN	AUT
3	00:45:44	MAKIPAA VESA	FIN
15	01:26:15	TAKIMOTO SHOICHIRO	JAP

イタリアWMOC参加記

岩月OLC M60 弘中 進

成田空港で1年ぶりの再会(昨年の真室川大会以来)をして成田空港を離陸。

眼下に広がる川も湖も凍てついたシベリア大陸、夕暮れのアルプス山脈、真っ白な尾根にポツリと光る山小屋の灯火を見ながらミラノ空港に到着する。

ミラノに2/12 ミラノ中央駅始発の鉄道で時差ぼけに悩まされながら、左右に広がるブドウ畑、ト奥に見えるアルプスの山々を見ながらロベレート駅に到着、2台のタクシーに分乗して到着してところは、春を思わせるようなフォルガリア。(何年ぶりかの暖冬だそうだ)

大会は、モデルイベント会場、ショート・リレー会場、ロングディスタンス会場共にフォルガリアからバス移動で行われた。

大会について

ショートディスタンスは で大ミスをしてしまいましたが、中・後半は自分の持てる力は出せたと思いますが、M60参加者中最下位に終わった。銅クラス3位の武石さんおめでとうございます。

リレー オープンの3走で出場、これも でつまづき、後半はうまく行ったが結果は最後から2番目のゴールにもかかわらず、運営者の好意により何十年ぶりかのゴールテープを切ることが出来たて感激しています。

ロングディスタンスはスタートコントロールから左(下り)右(登り)のコースがあり、私は左が有利と判断したが、これがつまづきの始まりだった。トラックが複雑で雪不足のためか?トラックがはっきりせず、ウロ、ウロ、9-59の小屋からコンパスで方向を定め沢をつめ左側に見えるコントロールにやっと辿り着いた。既に20分経過していた。

頭がパニックになり でもミスして時間切れ(バスの発車時間)で残念ながら途中棄権することになった。

全般的にスキー技術不足もあるが、やはり原因は地図読みの力不足で満足の出来るレースが出来なかったことを深く反省していますが、今回の参加でマスターズ世界選手権大会の日本SKI-Oのステップになれば、少しは気持ちが楽になります。

最後になりましたが、日本を一度も出たことがない私が参加できたことは団長の武石さん、コーチの植野さん、通訳してくれた堀江さん、高原さん、三澤さん、滝本さんのお陰だと感謝しています。

Grazie,dellasuo,vegalo.

何時か、きっと再挑戦します。

団長の後記

エントリー、送金、宿泊ホテル等、現地到着直前まで心配の種が尽きませんでした。日本スキーオリエンテーリングの歴史に確実に残る一頁を加えることが出来ました。

参加したものだけしか解らない、連日トラブルが起きるトラベルでしたが、平和な楽しい珍道中でした。詳細は、全員が提出するレポートで報告書にまとめますが、どんな所見が出てくるか恐ろしくもあり楽しみでもあります。

最後になりましたが、今回の遠征に当たって、陰に陽に様々な形で多くの方々からご支援ご協力いただきました。

チームを代表して厚く御礼申し上げます。
ありがとうございました。

高原（H55）、堀江（J-M）、弘中（H60）